

# 果 樹 の 生 育 概 況

令和6年4月11日現在  
福島県農業総合センター果樹研究所

## 1 気象概況

4月1～2半旬の平均気温は11.9℃で、平年より2.6℃高かった。また、この期間の降水量は53.0mmで平年比242%、日照時間は71.3hrで平年並であった（表1）。

表1 半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
4	1	10.6	8.4	+2.2	17.2	14.4	+2.8	4.4	2.8	+1.6	3.5	9.9	35.4	41.6	37.8	110.1
	2	13.2	10.1	+3.1	19.9	16.1	+3.8	7.0	4.2	+2.8	49.5	12.0	412.5	29.7	33.7	88.1
平均・合計		11.9	9.3	+2.6	18.5	15.3	+3.2	5.7	3.5	+2.2	53.0	21.9	242.0	71.3	71.5	99.7

## 2 発育状況

展葉の状況について、ナシ「幸水」は4月9日で平年より5日早く、リンゴ「ふじ」は4月4日で平年より3日早かった（表2）。

開花の状況について、モモ「あかつき」の開花は4月6日で平年より7日早く、満開は4月11日で平年より8日早かった。ナシ「豊水」の開花は、4月11日で平年より5日早かった（表3）。

表2 各樹種（品種）の発芽・展葉状況（観測地点：果樹研究所、4月11日現在）

	発芽観測日			展葉観測日		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あかつき	3月25日	3月24日	3月16日	-	-	-
ゆうぞら	3月28日	3月25日	3月17日	-	-	-
幸水	3月31日	4月1日	3月22日	4月9日	4月14日	4月2日
豊水	3月29日	3月30日	3月20日	4月6日	4月10日	3月31日
つがる	3月30日	3月26日	3月17日	4月6日	4月8日	3月28日
ふじ	3月28日	3月27日	3月17日	4月4日	4月7日	3月24日

注) 平年は1991～2020年の平均値。

表3 各樹種（品種）の開花状況（観測地点：果樹研究所内、4月11日現在）

樹種	品種	開花始観測日			開花盛観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	4月6日	4月13日	3月31日	4月11日	4月19日	4月5日
	ゆうぞら	4月6日	4月14日	4月1日	未	4月20日	4月5日
ナシ	幸水	未	4月20日	4月7日	未	4月25日	4月11日
	豊水	4月11日	4月16日	4月5日	未	4月22日	4月8日
リンゴ	つがる	未	4月25日	4月10日	未	4月30日	4月14日
	ふじ	未	4月26日	4月10日	未	4月30日	4月14日

注) 平年は1991～2020年の平均値

### 3 発育予測

仙台管区気象台が4月4日に発表した1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の気温は、高い見込みとなっている。

開花予測は、気象庁の2週間気温予報を反映した2週間予測では、ナシ「幸水」の開花は4月15日頃で平年より5日早く、リンゴ「ふじ」の開花は4月19日頃で平年より7日早いと予測される(表4)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により、大きく変動する場合がありますので注意する。

表4 開花予測日 [発育速度(DVR)モデルによる発育予測: 4月11日現在]

		開花日		今後の気温経過			2週間予測
		昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
幸	水	4月7日	4月20日	4月17日	4月16日	4月19日	4月15日
ふ	じ	4月10日	4月26日	4月24日	4月21日	4月27日	4月19日

注1) 平年は1991~2020年の平均値。

注2) 2週間予測とは、気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) 発育予測は2~3日の誤差を生じる場合がありますことに留意する。

### 4 栽培上の留意点

#### (1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底する。

(各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照)

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策(令和6年3月7日)」

URL <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/620212.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度にこまめに刈り込む。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保する(乾燥条件は気温の低下が著しいため)。

なお、降霜被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図る。

#### (2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合がありますので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行う。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数とする。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用する。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所(冷蔵庫が望ましい)に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぐ。

### 5 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病害

##### ア リンゴ黒星病

本病の重要な防除時期は開花期前後であるため、昨年本病の発生が認められた場合は、開花直前に本病に有効なDMI剤(県病虫害防除指針参照)またはカナメフロアブル4,000倍を使用して被害防止に努める。

##### イ モモせん孔細菌病

果樹研究所における春型枝病斑の初発生は、4月2日に確認された。本病は、発生初期の密度抑制が重要であるため、定期的にはほ場を巡回し、伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除を徹底する。春型枝病斑せん除の際は、病斑が発生した一

年枝を可能な限り基部まで切り戻す（図1）。また、落花直後に本病防除剤を使用し、被害防止に努める。



図1 春型枝病斑のせん除位置

#### ウ ナシ黒星病

果樹研究所における罹病落葉からの子う胞子の初飛散は、4月9日に確認された。本病の重要な防除時期は開花期前後であり、開花直前に効果の高いDMI剤（県病害虫防除指針参照）を十分量散布する。なお、開花期間が長引き、次回（落花直後）との散布間隔が10日以上あく場合は、今回散布10日後にチオノックフロアブル500倍またはトレノックスフロアブル500倍を使用する。ただし、人工受粉当日の使用は避ける。

#### エ ブドウ晩腐病

前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図る。また、発芽前にデランフロアブル200倍、パスポート顆粒水和剤250倍、ベンレート水和剤500倍のいずれかを散布する。

### (2) 虫害

#### ア モモハモグリガ

モモハモグリガ越冬世代成虫の果樹研究所に設置しているフェロモントラップにおける初誘殺は4月1半旬に確認した。越冬世代成虫の誘殺盛期は今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、4月4半旬頃と予想され、第1世代幼虫の防除適期は4月5半旬頃と推定される(表5)。なお、本年は冬期が温暖で経過したため、予測より早まる可能性がある。また、今後の気象経過により防除適期が変動するため、落花10日後頃を目安に防除を実施する。

#### イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ及びリンゴコカクモンハマキは幼虫で越冬し、展葉以降に新梢を加害する。なお、モモハモグリガと同様に、冬期が温暖で経過したため、予測より早まる可能性がある。昨年、本種の発生が多かった園や、花や新葉に食害が見られる園では、リンゴでは落花直後、ナシでは落花1週間後に本種に登録のある殺虫剤を使用する。

#### ウ リンゴハダニ

リンゴハダニ越冬卵のふ化盛期は、今後の気温が平年より2℃高く推移した場合、4月4半旬頃と予想される(表5)。なお、モモハモグリガと同様に、冬期が温暖で経過したため、予測より早まる可能性がある。越冬卵密度の高い園では、落花以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を使用する。

表 5 果樹研究所における防除時期の推定（令和 6 年 4 月 9 日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴハダニ
	越冬世代 誘殺盛期	第 1 世代 防除適期	越冬卵 ふ化盛期
2℃高い	4月17日	4月23日	4月17日
平年並	4月18日	4月25日	4月18日
2℃低い	4月21日	4月30日	4月23日

起算日：3月1日（演算方法は三角法）